

# 2021 年度中間決算報告書



株式会社エフエム東京

各位

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第 57 期上期（2021 年 4 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日まで）の営業状況をとりまとめましたので、ここにご報告申し上げます。

当期上期は、新型コロナウイルスの変異株の猛威による感染拡大により、緊急事態宣言が断続的に発令され、結果、個人消費の停滞や景気の足踏み状態が続き、依然として厳しい経営環境の中での事業活動を余儀なくされました。

そのような状況下ではございましたが、当社は、開局 50 周年を迎えた前期 2020 年度に定めたブランドプロミス“Life Time Audio 80.0”の具現化と継続的な編成改革に取り組み、その結果、2021 年度上期に実施された 3 回の首都圏ラジオ合同聴取率調査においてコアターゲット層「男女 18～49 歳」でトップを 2 回獲得する等、2020 年度来の好調を維持し続けております。また、営業活動においても、好調な聴取率を背景として、後述する音声コンテンツプラットフォーム「AuDee（オーディー）」を活用した新たな商品開発及び営業戦略並びに当社の放送事業の基盤でもある JFN38 局という全国ネットワークのスケールパワーが奏功し、特にスポットでは、多彩な業種のクライアントの大型キャンペーンを毎月獲得する等、緩やかではございますが回復の兆しが見えて参りました。

一方、コロナ禍前から続く日本のラジオ広告市場の低減傾向の流れの中で、当社は、FM 放送事業者から“オーディオコンテンツ事業者”への転換を経営方針としております。その成長戦略の中心として、強化・拡大を目指しているデジタルビジネスの分野では、2020 年 7 月にリリースした「AuDee」が、コンテンツ数も 700 を超え、月間アクティブユーザー数（MAU）では 2021 年 4 月に 160 万を達成する等、順調に進捗しており、収益面でも「AuDee」単体のみならず、放送事業収入の拡大にも寄与する等、FM 放送と並ぶ収益の柱となるべく成長を続けております。下期以降も、「AuDee」での新たなサービス展開を計画しており、MAU の飛躍的な伸長と更なるビジネスの拡大に貢献できるものと期待しております。また、上期にはファンコミュニティ「LisCom」の開設や、Spotify 社との提携等、新たな取り組みや他社との連携も強化して参りました。今後、ワクチン接種率向上による感染拡大防止措置緩和とこれを契機とした経済活動の本格的な正常化や個人消費の回復が期待されますが、当社においても、デジタルシフトを中心としたアフターコロナを見据えたニューノーマル下での新しい企業の在り方、事業展開を目途とした経営を今後も推し進めて参ります。

今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 黒坂 修

## 営業の概況

当中間連結会計期間においては、新型コロナウイルスの変異株が世界的に猛威を振るい、ワクチン普及による感染拡大防止措置の緩和が進んだ欧米先進国を除いては、社会活動への制約が継続し、世界経済回復ペースの鈍化をもたらしました。国内においても、断続的な緊急事態宣言等の発令に伴い、個人消費の停滞と景気の足踏み状態が続いております。

広告市場においては、新型コロナウイルスの影響による落ち込み幅が極めて大きかった前期上期との対比では全般的に回復傾向が見られました。経済産業省特定サービス産業動態統計調査（広告業、2021年4月～9月期）によると、特にテレビ広告市場はオリンピック・パラリンピック効果もあり、前年同期比 22%増で増収基調となりましたが、ラジオ広告市場は未だ回復途上にあり、前年同期比 2.1%減に留まりました。

このような状況下、当社グループにおいては、主力の「放送事業収入」が前期下期からの回復傾向を維持し、特に「スポット放送収入」が大型キャンペーン広告の受注獲得等により好調に推移し、前年同期比 7.8%の増収となりました。さらに、「タイム放送収入」も回復の兆しを見せ、結果、主力の「放送事業収入」全体で前期上期実績を上回りました。一方、「企画・制作事業収入」は依然としてコロナ禍の影響を受けており、音楽コンサート等の興行が制約される状況が続きましたが、WEB配信によるイベント企画の実施や、演劇等の舞台公演への参画等の施策により、前年同期との比較では売上が改善しました。しかし、後述のとおり、連結子会社ジグノシステムジャパン(株)が運営する「インフォメーションプロバイダー事業収入」が減収となったほか、前年度中の賃貸用不動産売却の影響による賃貸料収入減少により「その他の事業収入」も大きく落ち込みました。

この結果、当中間連結会計期間における連結売上高は 67 億 3 千 1 百万円（前年同期比 5.8%減）となりましたが、主力の「放送事業収入」の増収が利益を底上げし、営業利益は 4 億 2 千 7 百万円（前年同期比 40.7%増）、経常利益は 5 億 6 千 6 百万円（前年同期比 34.0%増）と、いずれも増益を達成いたしました。なお、親会社株主に帰属する中間純利益は 4 億 8 百万円を計上いたしました。前期上期は前述の賃貸用不動産売却等によって生じた特別利益が最終利益に加算されている関係で、前年同期比では 75.0%の減少となっております。

当社単体の業績については、売上高が 51 億 5 千 4 百万円（前年同期比 3.1%増）、営業利益が 2 億 9 千 2 百万円（前年同期比 70.8%増）、経常利益が 4 億 7 千 5 百万円（前年同期比 0.2%増）、中間純利益は 3 億 6 千 2 百万円（前年同期比 78.5%減）となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

### <放送事業活動>

当社では、開局 50 周年の節目を迎えた前年 4 月において、放送活動におけるブランドプロミス（編成指針）“Life Time Audio 80.0”を掲げており、「伝わる言葉と心に届く音楽で、生活者の日々を豊かにするオーディオコンテンツを発信しながら、生活者の人生に寄り添い、生活者と共に心豊かな物語を紡いでいく存在でありたい」との理念の実現を目指し、当

期4月の番組改編を実施いたしました。

朝の情報番組『ONE MORNING』(月～金曜 6:00～9:00)では出演者を一新し、“働く子育て世代”のユージ氏と吉田明世氏を新パーソナリティに起用しました。また、平日夕方には、生活者の目線にこだわったニュース&情報番組として、新番組『News Sapiens』(月～木曜 20:00～20:50)をスタートし、山際壽一氏(人類学者)、辻田真佐憲氏(評論家・近現代史研究者)、中野信子氏(認知神経科学者)といった各界で活躍する論客を出演者に迎えております。さらに、2018年8月から隔月で放送してきた世界的な作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる『村上 RADIO』を毎月1回の放送(毎月最終日曜日 19:00～19:55)に増枠し、村上氏自身によるユニークな選曲テーマで、文学ファンのみならず音楽ファンをも魅了し続けています。

これらのレギュラー番組に加え、当期上期においては“マンスリーキャンペーン”を積極的に実施しています。4月には、東京で新生活を始めたリスナーを応援する「東京ラジオ」を実施、ハイライトとして、当社レギュラー番組出演者のリリー・フランキー氏のオリジナル脚本による東京を舞台にしたコミカルなドラマを放送しました。6月には「RADIO VACATION-TOKYO CITY POP-」と題し、80年代感覚を象徴するイラストレーター永井博氏の描き下ろしによるビジュアルをキーに、世界で注目が高まっている日本のシティ・ポップを各番組を横断して1ヵ月間集中的に放送いたしました。7月、8月には東京オリンピック・パラリンピックに合わせて代表選手を音楽で応援する「CHEER UP! STATION」を、9月には「聴く防災訓練」として防災情報を積極的に発信する取り組みを行いました。

また、従来からの継続番組を含め、日々の放送においては、社会的関心事の取り上げを強化し、嘘・建前のない心から伝えるトークを徹底するとともに、生活者の悩みに寄り添う企画を推し進めました。10代をターゲットとした人気番組『SCHOOL OF LOCK!』(月～金曜 22:00～23:55)では、社会問題として顕在化してきた“ヤングケアラー”の問題を特集し、特別番組『ハザードランプを探して～コロナ禍の貧困「ただ、生きていてもいいですか?」』(7月11日(日) 19:00～19:55)では、正面から貧困問題に取り組みました。一方、ワイド番組を中心に、コロナ禍でひとり大型連休を過ごすリスナーを集めたオンライン交流会や、リモート飲み会を積極的に実施するなど、放送を超えてリスナーとつながる取り組みを行いました。

さらに、ブランドプロミスである“Life Time Audio 80.0”をより具体的に象徴する企画も実施しています。従来4月22日の「アースデイ」に合わせ、ジャパンエフエムネットワーク(JFN)加盟全国38局で実施してきた「アースコンシャスライブ」に代えて、当期から「Life Time Audio」＝一生モノの音楽体験を提供する特別番組に一新。人は14歳の時に聴いた音楽でその後の音楽の好み形成されるとも言われていることから、山下達郎、福山雅治、草野マサムネ、あいみょん、Official髭男dismをはじめ様々なアーティストに「14歳の時に聴いていた(好きだった)音楽」について語ってもらう特別番組『Life Time Audio～My First Music「14歳のプレイリスト」』(4月22日(木) 19:00～21:00)を放送しました。10月からはアーティスト・文化人・アスリートなど様々な人物の人生に影響を与えた楽曲を紹介する『Life Time Audio～人生のプレイリスト～』(月～金曜 14:55～15:00)を

編成し、リスナーの人生に寄り添う音楽を探す拠点番組としていきます。

また、7月には、ファンコミュニティ業界のリーディングカンパニーであるクオン(株)との連動により、会員制の公式ファンコミュニティ「LisCom」をスタートさせました。当社の番組や番組提供クライアントの「ファン」を育成し、コミュニティでの会員の発言を AI 分析することで、番組提供クライアントへのマーケティング支援も行う機能を有しており、番組提供とのパッケージ販売による事業化を可能とするサービスに育成することを目指しております。

これらの取り組みの結果、4月の聴取率調査では、当社のコアターゲットである「男女 18～49 歳」において単独トップを獲得し、6月調査は同率2位となりましたが、9月調査では同率トップとなり、加えて「男女 12～59 歳」で単独トップ、「男女 12～69 歳」でも同率トップを獲得しました。また、「20代」「30代」「40代」「50代」の各年代それぞれでもトップとなり、前年から幅広いリスナーに支持される放送局を目指し編成改革を推進してきたことが結実しはじめています。

以上のような活動を展開した結果、当中間連結会計期間における放送事業収入は増収基調で推移し、前年同期実績を上回りました。

当社は、FM 放送事業者の枠を超えて、“オーディオコンテンツ事業者”となることを経営戦略として掲げており、その第一歩として、関連会社(株)ジャパンエフエムネットワークと共に、前年7月、音声コンテンツプラットフォーム「AuDee (オーディー)」を立ち上げました。AuDee では、FM 番組との連携によるコンテンツに加え、FM 番組の枠を超えたインターネットならではのオリジナルコンテンツまで、700 以上のコンテンツを提供しており、順調にユーザーを増やしております。4月には月間アクティブユーザー数 (MAU) が 160 万人を超え、話題のコンテンツも数多く生まれており、当社の広告主に対しても FM 番組とは異なる新たな広告展開の手法を提供する事例が増加しております。その結果、当期上期においては「AuDee」より生み出される収益が増加しつつあり、今後、当社の収益を支える事業に成長させて参ります。

「AuDee」を核とした DX 推進は、当社のデータマーケティング戦略にも変革をもたらしています。従来、当社を含む既存マスメディアは、「広告効果の実証」の面でインターネット広告に遅れをとっているといわれておりましたが、当社では、「AuDee」及び「radiko」ユーザーの膨大な聴取データ、並びに当社 WEB サイト等へのアクセスデータを日々蓄積するカスタマーデータプラットフォーム (CDP) を独自に構築し、外部の販売データ等と突合することにより、提供社の広告出稿効果をデータで可視化できる広告効果測定基盤の開発に取り組み、当期上期より運用を開始しました。これにより、番組の聴取状況と提供社の商品の購買率の相関関係等、多様なデータを提供社や広告会社に示すことが可能となります。特に、全国ネット番組においては、JFN 加盟各局の聴取データを集約することにより、より精度の高いデータを提供することが可能となり、ネットワークセールスの活性化への貢献が期待されます。今後も、測定基盤の精度向上・機能拡張を含め、様々な新しい技術・手法に取り組むことにより、当社のデータマーケティング戦略を推進し、広告媒体としての

価値向上に努めてまいります。

#### <企画・制作事業活動>

新型コロナウイルスの感染拡大は当期も止まることなく、エンタテインメント業界は前期から引き続き大きなダメージを受けています。緊急事態宣言の下、オリンピック・パラリンピックも無観客開催となり、当社が参画を予定していた夏の大型イベントの多くは中止措置となりました。そのような状況下ではありましたが、WEBによる配信コンサートの実施、企業向けのインナーイベントのプロデュース、回復しつつある舞台系の興行への参画等に積極的に取り組み、また、コロナ禍での巣籠り需要が奏功した映画コンテンツの2次使用料収入の増加の影響もあり、企画・制作事業全体の売上高では前年同期実績を上回りました。

#### <インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン(株)では、主力のモバイル端末向けコンテンツ事業において、所謂ガラケー向け公式サイトへの閉鎖、通信キャリアのアプリ取り放題サービスへのコンテンツ提供での配分収入の減少、新型コロナウイルスの感染拡大によるキャラクターライセンス商品の実店舗での販売減少等の要因により、期首より減収基調で推移しました。これに対し、企業向けの大型システム開発案件の受託、SNSの人気キャラクターを起用したカジュアルゲームの強化等の新たなゲーム戦略、LINEスタンプの海外展開等の施策により巻き返しを図りましたが、当期上期においては未だ収益体質の回復には至りませんでした。さらに、今期より適用が開始された「収益認識に関わる会計基準」(企業会計基準第29号)及び同「適用指針」(企業会計基準適用指針第30号)の規定により、従来の売上の一部が営業費用との相殺により減額表示される影響が加わり、インフォメーションプロバイダー事業全体の売上高では前年同期実績を大きく下回る結果となりました。

#### <その他の事業活動>

TOKYO FM 少年合唱団は、新型コロナウイルス感染症対策を徹底、団員の安全を確保しながら、新国立劇場のオペラ「カルメン」(7月)、東京二期会「魔笛」(宮本亜門演出・リッツ州立歌劇場共同制作・9月)に出演する等の活動を行いました。

しかし、その他の事業活動全体では、前年6月まで2店舗あったレストランの閉店による影響に加え、同年9月の賃貸用不動産売却による不動産賃貸収入の大幅減少等により、売上高が大きく減少しております。

なお、上記のとおり不動産賃貸による収入が大幅に減少しているため、前期まで別掲していた賃貸事業活動を当中間連結会計年度よりその他の事業活動に含めております。

以 上

## 前年同期比較中間損益計算書（連結）

2021年4月1日～2021年9月30日

(単位:千円)

勘定科目	2022年3月期中間期 (2021.4.1～2021.9.30)	2021年3月期中間期 (2020.4.1～2020.9.30)	前年同期比
売上高	6,731,529	7,142,405	94.2%
売上原価	3,943,754	4,385,711	89.9%
売上総利益	2,787,774	2,756,694	101.1%
販売費及び一般管理費	2,360,058	2,452,692	96.2%
営業利益	427,716	304,002	140.7%
(売上高営業利益率)	6.4%	4.3%	
営業外収益	151,453	130,077	116.4%
営業外費用	12,320	10,904	113.0%
経常利益	566,850	423,175	134.0%
(売上高経常利益率)	8.4%	5.9%	
特別利益	25,334	1,741,234	1.5%
税金等調整前中間純利益	592,184	2,164,410	27.4%
法人税、住民税及び事業税	163,048	288,694	56.5%
法人税等調整額	6,884	216,303	3.2%
中間純利益	422,251	1,659,412	25.4%
非支配株主に帰属する 中間純利益	13,458	26,033	51.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	408,793	1,633,379	25.0%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 前年同期比較中間損益計算書（当社単体）

2021年4月1日～2021年9月30日

（単位：千円）

勘定科目	2022年3月期中間期 (2021. 4. 1～2021. 9. 30)	2021年3月期中間期 (2020. 4. 1～2020. 9. 30)	前年同期比
売上高	5,154,297	4,999,666	103.1%
売上原価	3,152,819	3,111,846	101.3%
売上総利益	2,001,477	1,887,820	106.0%
販売費及び一般管理費	1,709,326	1,716,770	99.6%
営業利益	292,150	171,049	170.8%
（売上高営業利益率）	5.7%	3.4%	
営業外収益	195,630	317,508	61.6%
営業外費用	12,376	13,917	88.9%
経常利益	475,405	474,640	100.2%
（売上高経常利益率）	9.2%	9.5%	
特別利益	4,929	1,685,920	0.3%
税引前中間純利益	480,334	2,160,561	22.2%
法人税、住民税及び事業税	118,902	250,867	47.4%
法人税等調整額	△ 858	220,870	—
中間純利益	362,289	1,688,822	21.5%

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。



## 前年同期比較売上高内訳書(当社単体)

2021年4月1日～2021年9月30日

(単位:千円)

	2022年3月期中間期 (2021.4.1～2021.9.30)	2021年3月期中間期 (2020.4.1～2020.9.30)	前年同期比
売上高	5,154,297	4,999,666	103.1%
放送事業収入	5,039,323	4,842,627	104.1%
放送収入	3,371,115	3,373,663	99.9%
タイム放送料	2,232,722	2,317,278	96.4%
スポット放送料	1,138,392	1,056,384	107.8%
制作収入	1,203,939	1,091,877	110.3%
その他	464,268	377,086	123.1%
企画事業収入	77,704	38,769	200.4%
賃貸事業収入	26,942	107,674	25.0%
その他事業収入	10,326	10,595	97.5%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 57期(上期)広告会社取り扱い順位

### <総合順位>

57期	56期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	5	大日本印刷
5	6	オレンジ・アンド・パートナーズ
6	7	エスプロックス
7	8	東急エージェンシー
8	57	クオラス
9	19	企画・宣伝協同組合
10	4	全農ビジネスサポート

### <タイム>

57期	56期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	5	大日本印刷
5	6	オレンジ・アンド・パートナーズ
6	44	クオラス
7	16	企画・宣伝協同組合
8	4	全農ビジネスサポート
9	21	オリコム
10	8	読売エージェンシー

### <スポット>

57期	56期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	エスプロックス
4	8	ADKマーケティング・ソリューションズ
5	9	東急エージェンシー
6	4	ユータムエンタープライズ
7	7	放送文化事業
8	5	アドグリーン
9	10	マッキャンエリクソン
10	25	デイリースポーツ案内広告社

## 2022年3月期 中間決算短信

2021年11月25日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代 表 者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒坂 修

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部 経営管理局長 (氏名) 東 和志 TEL (03)3221-0080

配当支払開始予定日 2021年12月7日

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期中間期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期中間期	6,731	△5.8	427	40.7	566	34.0	408	△75.0
2021年3月期中間期	7,142	△20.0	304	△28.2	423	△3.3	1,633	93.0

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
2022年3月期中間期	456	27	—	—
2021年3月期中間期	1,823	08	—	—

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2022年3月期中間期	30,126		23,415		76.4	
2021年3月期	31,362		22,899		71.8	

(参考) 自己資本 2022年3月期中間期 23,013百万円 2021年3月期 22,505百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	中間期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2021年3月期	60	00	90	00	150	00
2022年3月期	60	00				
2022年3月期(予想)			60	00	120	00

### ※注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規：—社

除外：—社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 有

② ①以外の会計方針の変更 無

③ 会計上の見積りの変更 無

④ 修正再表示 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む) 2022年3月期中間期 900,000株 2021年3月期 900,000株

② 期末自己株式数 2022年3月期中間期 4,057株 2021年3月期 4,057株

③ 期中平均株式数 (中間期) 2022年3月期中間期 895,943株 2021年3月期中間期 895,943株

(参考) 個別業績の概要

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期中間期の個別業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期中間期	5,154	3.1	292	70.8	475	0.2	362	△78.5
2021年3月期中間期	4,999	△22.3	171	△53.1	474	2.2	1,688	426.2

	1株当たり中間純利益	
		銭
2022年3月期中間期	402	54
2021年3月期中間期	1,876	47

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期中間期	28,178	22,813	81.0
2021年3月期	29,483	22,347	75.8